人工生産アユの体色は放流後に変わるのか

人工生産のアユ種苗は、室内飼育のため体色が白っぽくなりやすい傾向にあり、また、放流のために水槽から出され、活魚車に押し込められて輸送されることにより、かなりのストレスを受けて、放流時には更に白っぽくなります。

放流直後の白っぽいアユがフラフラ泳ぐと、その様子を見た漁協の方々から“こんな色じゃダメだ”とお叱りを受けます。「そりゃ、これだけストレスを受けているのだから、最初はしょうがないじゃない。」と思いますが、放流後に体色が改善するというデータを持ち合わせていませんでしたので、ぐっと心に秘めておりました。

図１：馴致前のアユ（５/20）

ところが先日、（一財）神奈川県内水面漁業振興会から、「河川放流後に人工産アユ種苗の体色がどのように変化するか試験をしたい。」との話があり、これはチャンス！とばかりに、同会が行う試験に全面協力し、漁協など関係機関の方と共に取り組みました。また、解禁まで間もない中、速やかに試験に着手出来たのは、所要の事務手続きも含め各方面の方々の多大な協力が無くてはできないものでした。

実施場所は、高田橋下流の河川の一部を網で囲って、そこに人工産アユ種苗を放流し、約１週間程度河川への馴致を行い、魚籠に入れた状態の魚の体色と比べてみました。

図２：囲い網設置の様子

図３：完成した囲い網

図４：囲い網への放流

見た目から、馴致した魚はオリーブ色が出始め、天然の魚に近づいており、漁協の方々にも「色が変わったね。」と言って頂きました。

試験が終わり全て放流しましたが、一部のアユにはPEラインによる標識（迷子札）を付けて、その後の移動状況を調査しています。もし、この魚を見つけましたら、漁協か試験場へご連絡ください。

図５：左　馴致後のアユ（５/26）（背中にPEライン標識あり）
　　右　仕切り網の中で魚籠に収容したアユ（５/26）

連絡先　相模川第一漁業協同組合　042-762-2726
　　神奈川県水産技術センター内水面試験場　042-763-2007